

学校法人中央大学理事長が交代：足立直樹新理事長が就任 ご報告とお詫び

学校法人中央大学は、2012年10月29日開催の理事会において、久野修慈氏を理事長職から解き、新たに足立直樹理事を理事長に選任しました。また、4名の常任理事のうち1名を常任理事職から解き、他の1名の常任理事を辞するとの申し出を承認しました。

前理事長の解任理由は、本年度の中央大学横浜山手中学校の入試不正事案に関与したにもかかわらず、その責任を認めず、中央大学理事会をはじめとする学園全体の運営を混乱させたことから、前理事長が本法人の経営責任者であることが経営上不適切であると理事多数が判断したところにあります。

今回の理事長交代の端緒となった事案は、本年2月2日に実施された横浜山手中学校入試において、本来の合格基準に達していなかった受験生1名を合否判定会議において特別に合格させ、その後、当該判定の内部通報を受けた大学が当該判定は不正である旨の指摘を同校に行い、同校が2月27日に再度同会議を招集し当該受験生の合格を取り消したというものです。当初の合格判定の契機は、前理事長(兼中央大学学員会長)が、合否判定責任者たる中学校長に対して、學員を通じて紹介のあった当該受験生の受験番号と氏名を直接・複数回伝えたところにあることが明らかとなっています。

本年3月、理事会は、本事案を調査する「第三者委員会」を設置し、その報告を受けた後の9月24日には、前理事長の関与と責任と総長の管理責任を認め、それぞれ報酬の一定部分を自主返納するよう求める勧告を行いました。その直後26日に本事案が報道されました。同日の記者会見での前理事長の発言内容やその後開示された報告書他の資料を踏まえて、大学全学部・全専門職大学院の教授会において、前理事長の辞任または解任を求める決議がなされました。こうした中、10月9日の理事会において過半数の理事により前理事長解任動議が提出されましたが、前理事長が議長であったことから採決にいたらず紛糾し、それがまた新聞等で報じられることになりました。その後24日には、学長・全学部長・全専門職大学院研究科長・全大学院研究科委員長・3附属学校長及び入学センター所長の20名によって、前理事長の理事長職及び理事の退任を求める共同声明が発表されました。また、大学や附属学校の各労働組合も同趣旨の声明を出しています。こうした経過を経て理事会は、10月29日に、久野修慈氏を理事長職から解くとの議決に至ったものです。

もとより本学は私学ではありますが、社会からの負託を受けて公的な教育を担っています。公教育の機関として、いやしくも不適切さや疑念を指摘される入学試験を実施してはならず、そのためには予め設定した合格基準を遵守しなければなりません。これは、社会に対する責務であると同時に、受験生に対する責務でもあります。

学校法人中央大学は、横浜山手中学校設置者として、教育研究機関の責務を全うできなかったことを深くお詫び申し上げます。また、中央大学・附属学校に在学する学生・生徒と父母・保護者の方々、卒業生をはじめとする様々な関係の方々に対し、皆さまのご支援とご協力によって本学が創立以来築いてきた社会からの信頼・信用を大きく損なう事態を出来させたことを、改めてお詫び申し上げます。

本学は、今後このようなことが決して起こることのないよう、再発防止に取り組むとともに、新理事長選任を契機として、教育研究機関としての社会からの負託に真摯に応え、その責任を全うするべく、改革を遂行してまいります。

新理事長より ごあいさつ



新理事長 足立 直樹

この度、学校法人中央大学理事長に選任されました足立直樹です。長い歴史と伝統を有する本学の理事長としての職務を始めるにあたり、ご挨拶を申し上げます。

現在、学校法人中央大学は、大学に加え4高等学校と2中学校を擁する学園として、広く教育・研究活動を展開しておりますが、その基礎にあるのは、いうまでもなく、社会からの信頼に基づく負託です。とりわけ、教育活動については、設置学校のいずれもが、公教育を担っており、高い倫理性が求められております。

今般、本学が設置する横浜山手中学校の2012年度入試において、予め設定された合否判定基準に合致しない合格決定がなされ、後にこれを取り消したという事案が発生しました。この件は新聞その他により広く報道され、卒業生の皆さんをはじめ、そのご家族にまで多大なるご迷惑、ご心配をおかけいたしましたことを、事件当時から理事の一人として、心よりお詫び申し上げます。

このことにより、私たちの愛する、誇り高い中央大学のブランドが著しく損なわれてしまいました。大変残念なことではありますが、今こそ私はこの母校の危機を機に、改めて学校法人としての組織のあるべき姿を教職員の皆さんとともに捉えなおし、中央大学にふさわしいガバナンスの再構築を含めた改革を早急に進め、大学が長い歴史の中で育んできた輝かしいブランドを再び世間に認めていただけるよう、力を尽くしてまいりたいと存じます。

私は、長年企業の経営者として仕事をしてまいりましたが、その中で常に目指し、社員にも繰り返し話してきたのは、「社会から信頼され、尊敬され、その上で強い企業たれ」ということです。それは、企業というものには、そこに働く者だけではなく、社員の家族、親戚、取引先など多くの人々がかかわっており、その企業のあり方、世間からの信頼には、それらの人々の幸せが直結しているという、私自身の信念です。このことは、中央大学の理事長として仕事をする上でも、全く同じであると考えています。本学で学ぶ全ての学生・生徒、教職員、卒業生の皆さん、そしてそれら全ての方々のご家族にとって、中央大学が社会から「信頼され、尊敬される大学」であることは、何よりも大切なことでしょう。私は、学生・生徒の皆さんが入学したことに誇りを持つて、また、卒業生の皆さんが、是非息子を、娘を入学させたいと願う学園を目指してまいります。

今、かつて無いスピードと規模で社会は変化しております。本学の建学の精神「實地應用ノ素ヲ養フ」の通り、この学園で学ぶことが、社会において実際に応用することのできる力となるよう、社会に貢献する人財を育む責任ある学校法人として、変化に対応するスピードをもって改革に取り組みます。

幸いにして中央大学には、向学の志の高い学生・生徒とそのご父母、母校を愛する卒業生、あるいは直接・間接に本学をパートナーとしてくださっている方々がおられます。創立125年から150周年へ向かう中央大学を社会からの負託に応え、世界の高等研究教育界において存在感のあるものに再生すべく、理事長として全力を尽くす所存ですので、どうぞご意見・ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

学校法人中央大学

理事長 足立 直樹

プロフィール

足立 直樹 あだち なおき 1939年2月23日生まれ 静岡県出身

1962年 3月
2000年 6月
2005年11月
2010年 6月

中央大学法学部法律学科卒業
凸版印刷株式会社代表取締役社長
学校法人中央大学理事（現在に至る）
凸版印刷株式会社代表取締役会長（現在に至る）

学校法人中央大学の理事長が交代いたしましたこの機会に、改めて中央大学総長・学長としてご挨拶申し上げます。

2010年に創立125周年を迎えました中央大学は、現在、第6の四半世紀（第6クォーター）のスタートを切ったところです。今日、私たちの社会は多くの課題を抱えておりますが、その一つが、少子高齢化です。教育界においては、この課題はしばしば「受験者数の減少に伴う経営難問題」という形で議論されますが、私は、必ずしも少子高齢化は「問題」を引き起こすばかりではないと考えております。確かに1966年には約250万人であった18歳人口は、間もなく120万人を下回ると予測されており、少子化の影響は顕著です。しかしながら、これは教育機関にとってみるならば、一人ひとりの学生・生徒の適性と希望に合わせた教育を展開するチャンスでもあります。とりわけ、日本社会における人口の減少は、日本社会が国際的な分業の中でその特長を發揮することを要請しますが、このような環境、すなわちグローバル化の進展に合わせた新しい研究教育に果敢に取り組み、グローバルに活躍できる視点と能力を有する若者を育成することは、中央大学とその附属学校が最優先で取り組むべきテーマでありましょう。

そうした中、今般、中央大学横浜山手中学校において、入試不正事案が発生しましたことは、学校法人中央大学が設置する全ての学校・学術研究機関を総括統理する総長として、申し訳なく存じます。改めてこの機会に、総括統理者としてお詫び申し上げる次第です。

私立学校の存在意義は、それぞれの建学の精神に基づく教育・研究を展開し、社会からの負託に応えるところにあります。私たちは、傷ついた信頼を回復するために全力を尽くしますが、それは何よりも、私たちの本来の任務である教育と研究とを全うすることによってなされるべきことであります。現在と過去を検証し、本学のガバナンスやコンプライアンスを再構築することは、もちろん喫緊の重要課題であり、足立直樹新理事長の下、既に各種の取り組みを始めております。しかし他方で、本学が教育研究機関である以上、その信頼の源泉は、本学及び附属学校における教育研究そのものへの高い評価でなければなりません。

本学は、本年7月に附属学校を含む全学的な組織として「国際連携推進機構」を設置しグローバル化を推進する体制を構築したところですが、文部科学省平成24年度「グローバル人材育成推進事業」に採択され、既にいくつもの意欲的なプログラムを始動させています。また、本年度から特別な予算措置を伴う「教育力向上推進事業」を開始し、教育力向上に努めており、来年度には、大学における学部の枠を越えた教育を支援する「全学連携教育機構」を設置することも決定しました。私たちは、これらを重要な契機として、教育・研究の活性化・高度化を進めてまいります。

中央大学は、本学の現在と過去を検証し、教育と研究を高度化することで、社会からの負託に応えてまいります。今後とも、ご鞭撻・ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

中央大学

総長・学長 福原 紀彦



総長・学長 福原 紀彦

新執行体制のお知らせ

常任理事 **松丸 和夫** 人事・労務・大学改革・総務・管財担当
常任理事 **遠山 暁** 学事・教学調整・財政・資金担当